

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2022年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2022年度の実業計画を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、ウイズコロナ時代といわれる2022年度においても、以下の基本方針を掲げ、コロナ対策に万全を期して事業を推進する。

1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話（はなしあい）を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) コロナ禍における財団事業の展開においては、①関西セミナーハウスの事業を2022年4月から2023年3月まで、コロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的な開業に向けて取り組みを行う。②アカデミー運動における事業活動は、3密対策を徹底し、研修・セミナーは集合形式とリモート形式の併用を計画し開催の実施を目指す。
- 3) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、施設再生プロジェクトは経営委員会に統合し、事業再開を含めた施設の具体的展開策を提案する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とする。寄付金も含めて、活動センターとしての収支バランスを目指す。
- ③ 参加者同士の対話中心のプログラム実施にあたっては、オンライン会議のメディア等を積極的に活用して、新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。

- ⑤ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑥ キリスト教精神に基づくものではあるが、未だに社会の共通認識にと至っていない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① コロナ禍の状況にあつて、(第1段階) 2020年10月から3月関西セミナーハウス休業期 KSHの廃止も検討し、(第2段階) 2021年4月から2022年3月パイロット事業期として、小グループによる研修の可能性の模索、感染防止対策の構築 課題の抽出に取り組んできた。

2022年度は、4月1日より臨時休業を解除し、第3段階として関西セミナーハウス新体制構築の準備期とし、コロナ感染対策を徹底した運営、設備点検修繕の検討を行う。

そして、利用者増大の可能性を探り、次年度以降の新たな運営体制構築を模索する。

- ② アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を鋭意検討する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

- ① 2022年4月から関西セミナーハウス新体制構築の準備期とし、コロナ感染対策を徹底する。
- ② 事業再開を検討する際は、一般利用者、企業等に対して施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告す

る。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

- 4) シュペネマン・クラウド記念集会（財団の未来を語り合う）開催
財団本部と関西セミナーハウス活動センターの共催とする。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

特に関西セミナーハウス再興のための募金活動を行う。

II 関東活動センター2022年度事業計画

2022年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. Covid-19 感染拡大がなお続く中で、今必要とされる課題についての講座や企画に絞って事業展開をする。
2. 「今日的課題」Ⅰとして、「コロナ後の教会の可能性」について2021年度に継続して来た共同研究の成果を書籍にして、7月頃、キリスト新聞社から刊行予定である。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、前年度に引き続き、連続講座「日本キリスト教史を読む 第二期（大正編）」のアンコール開講を全面リモート（Zoom）で実施する。前回聞き逃した受講者だけでなく、リモートでの開講によって関西セミナーハウス活動センターの会員、さらに全国での受講者を募る。現在全国から約90名の受講者が与えられている。
4. 「宗教対話」Ⅱとして、新しく連続講座「キリスト教と文学」を開講する。これは明治以降の日本の近代文学に果たしたキリスト教の影響を、文学作品によって跡付ようという試み。講師は著名な文芸評論家柴崎總さん。Zoomと対面のハイブリット方式を模索しているが、機材の関係などで今年度は全面Zoom開講になるかも知れない。
5. 「宗教対話」Ⅲは、「キリスト教と美術」を新しく取り上げる。西洋美術とキリス

ト教との関わりについて各作品を通して分析する。講師は山梨県立美術館学芸員の太田智子さん。Zoomの画面共有の機能を駆使して、作品の詳細を実見しながらの講座となる予定。

6. 「宗教対話」Ⅳは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
7. 「聖書を読む講座」Ⅰは、「若者と共に聖書を分かち合う」という視点で新しく開講する講座。講師はSCF（学生キリスト教友愛会）主事として、長年若者と向き合ってきた野田沢牧師。若い世代の参加者を募ると共に、若者を受け容れる教会の可能性を探る。
7. 「聖書を読む講座」Ⅱは、山口里子氏によるマルコ福音書の新しい読み方を示す講座で、今期で5期目になる。全面Zoomによる開講で、全国各地、さらに海外からも約80名の参加がある。
8. 体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。
9. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2022年度も各神学校の賛助を得て、第12回プログラムを実施する。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日的課題Ⅰ	共同研究	「コロナ後の教会への希望」 荒瀬牧彦（日本聖書神学校教授）	2021年度5回Zoomにて研究会開催 7月頃、報告書をキリスト新聞社より出版予定
関東フォーラム 今日的課題Ⅱ		「パンデミックに抗して」 講師・未定	未定

関東フォーラム 宗教対話Ⅰ	7回	連続講座「日本キリスト教史を読む」Ⅱ（大正編 アンコール開講）講師 戒能信生（千代田教会牧師）早稲田奉仕園、関西セミナーハウス活動センターと共催） Zoomによる全国向け講座	第1回5月12日(木) 第2回6月9日(木) 第3回7月14日(木) 第4回9月8日(木) 第5回10月13日(木) 第6回11月10日(木) 第7回12月8日(木)
関東フォーラム 宗教対話Ⅱ	10回	連続講座「キリスト教文学に学び」Ⅰ 講師・柴崎總（文芸評論家）Zoomによる全国向け講座	第1回4月20日(水) 第2回5月18日(水) 第3回6月15日(水) 第4回7月20日(水) 第5回9月21日(水) 第6回10月19日(水) 第7回11月16日(水) 第8回1月18日(水) 第9回2月15日(水) 第10回3月15日(水)
関東フォーラム 宗教対話Ⅲ	8回	連続講座「キリスト教と美術」Ⅰ 講師・太田智子（山梨県立美術館学芸員）Zoomによる全国向け講座	第1回5月30日(月) 第2回6月27日(月) 第3回7月25日(月) 第4回9月26日(月) 第5回10月31日(月) 第6回11月28日(月) 第7回1月30日(月) 第8回2月27日(月)
関東フォーラム 宗教対話Ⅳ	1回	柏木義円公開講演会「柏木義円の日記に見るその日常」講師未定（柏木義円研究会との共催）	11月19日(土)

聖書を読む講座 I	6回	「若者と共に聖書を分かち合うとは？」 I 講師 野田沢 (SCF 主事) (早稲田奉仕園、関西セミナーハウス活動センターと共催) リモートによる開催	9月から全6回、月に一度、全面 Zoom で開講の予定
聖書を読む講座 II	10回	新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっくり読む」 V 講師 山口里子 (早稲田奉仕園、関西セミナーハウス活動センターと共催) 全面ズームにより全国向け講座	第1回4月12日(火) 第2回5月10日(火) 第3回6月14日(火) 第4回7月12日(火) 第5回9月13日(火) 第6回10月11日(火) 第7回11月8日(火) 第8回12月13日(火) 第9回1月10日(火) 第10回2月14日(火)
話し方ワークショップ	10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ(ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師・友野富美子 対面プログラム	第1回5月17日(火) 第2回6月21日(火) 第3回7月19日(火) 第4回9月20日(火) 第5回10月18日(火) 第6回11月15日(火) 第7回12月20日(火) 第8回1月17日(火) 第9回2月21日(火) 第10回3月21日(火)
神学生交流プログラム		第12回神学生交流プログラム 校長 神田健次(関西学院大学名誉教授)、講師 未定 開催場所は未定	2023年3月に二泊三日で開催予定

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター2022年度事業計画

昨年度は、コロナウイルス感染症の広がりのため、いずれのプログラムも、発題講演者と参加者をオンラインで結ぶZoom方式を主とし、これに関西セミナーハウスでも参加できるようにした。この方式は、講師と参加者が、顔と顔を合わせて親しく話すことを難しくしたが、遠隔の地にいる人もプログラムに参加することを可能にした。

2022年度は、可能な限り関西セミナーハウスの施設の特徴を生かすため、講師が関西圏の場合は、原則として関西セミナーハウスでの対面の集会を主とし、これに参加できない人は、Zoom方式で、オンラインでも参加できるようにしたい。講師が関西圏以外の場合は、昨年度と同様Zoom方式を主とし、これに関西セミナーハウスでも参加できるようにする。

関西セミナーハウスの大きな特徴は、宿泊施設を有する点にある。昨年度には持てなかった宿泊プログラムを2022年度には是非開催したい。

プログラムでは、今日の社会の直面する様々な課題を取り上げ、それを克服する道を探る。

1. 修学院フォーラム「社会」では、ジェンダー、新資本主義、沖縄、原発などの問題を共に考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」では、医療、ケア、貧困などの問題を考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」では、気候変動やパンデミック、老いなど問題を考える。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. その他、時に応じて、新しい課題に対するプログラムを追加する。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	ジェンダーの正義 (仮) 講師 藤原佐和子 (日本ルーテル神 学校教員)	5月21日 (土)
	第2回	資本主義の終焉 (仮) 講師 内田 樹 (神戸女学院大学名誉 教授)	7月2日 (土)
	第3回	沖縄の今 (仮) 講師 金井 創 (日本基督教団佐敷教 会牧師)	8月6日 (土)

	第4回	ジェンダーとキリスト教 (仮) 講師 堀江有里 (公益財団法人世界 人権問題研究センター研究員)	12月3日 (土)
	第5回	エネルギーを考える第10回 講師 交渉中 講師 交渉中	2023年1月8日(日) ～9日(月、祝) (仮)
修学院フォーラム 福祉	第1回	外国人と医療 (仮) 講師 青木理恵子 (特定非営利活動 法人チャーム事務局長)	6月予定
	第2回	パンデミックとケア (仮) 講師 岡野八代 (同志社大学グロー バルスタディーズ研究科教授)	7月9日 (土)
	第3回	子ども・女性・若者の「貧困」 (仮) 講師 交渉中 京都 YWCA と共催	2023年2月予定
	第4回	東九条子ども食堂の試みから (仮) 講師 許 伯基 (在日大韓基督教会京 都南部教会牧師)	2023年3月18日(土)
修学院フォーラム いのち	第1回	世界の農村指導者と「共に生きるた めに」を目指して～アジア学院50 年の働き～ 講師 荒川朋子 (アジア学院校長)	4月23日 (土)
	第2回	パンデミックの時を越えて聖書が指 し示すもの (仮) 講師 月本昭男 (上智大学神学部特任 教授)	9月23日 (金、祝) ～24日(土)
	第3回	老いの日をいかに生き、支えるか (仮) 講師 交渉中	10月予定
研修・セミナー・体験交流事業			

開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「新刊・教材集より」(仮) 共催 (公財)京都市国際交流協会	6月19日(日)
	第2回	政治や経済をくらしの場に取り戻す ～時代の曲がり角を突破する力を求めて～(仮) 講師 松村圭一郎(岡山大学文学部)	7月16日(土)～17日(日)
	第3回	誰のための平和か～中東で起きていることを理解する(仮) 講師 交渉中	9月予定
	第4回	アフターコロナの世界～日本の食と農を考える(仮) 講師 藤原辰史(京都大学人文科学研究所准教授)	10月15日(土)
	第5回	在日外国人支援の現場から(仮) 講師 藤井邦洋((特活)ともにいきる宝塚)	11月予定
	第6回	気候危機と地球と私たち(仮) 講師 伊与田昌慶(国際環境NGO 350.org Japan)	12月10日(土)～11日(日)
シュペネマン・クラウス記念集会	財団本部と共催	10月9日(日)～10日(月、祝)(仮)	
もみじまつり	関西セミナーハウスと共催	11月23日(水、祝)	

Ⅲ 関西セミナーハウス2022年度事業計画

臨時休業中であつた関西セミナーハウスは2022年4月1日より臨時休業を解除し、新体制構築の準備期としてコロナ感染対策を徹底した運営に取り組む。

2022年度の関西セミナーハウスの事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) 関西セミナーハウスは2022年4月から2023年3月までコロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的な開業に向けて取り組みを行う。

- 2) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、施設再生プロジェクトは経営委員会に統合し、事業再開を含めた施設の具体的展開策を提案する。
 - 3) 要員計画は感染症の推移を注視しながら段階的に策定し、補充が必要な際は適正に行う。
 - 4) 宿泊予約受付は利用者数の変化を見据えて、段階的に行う。
 - 5) 会計単位は本部事務局の管理下から関西セミナーハウスに戻す。
 - 6) 資金不足発生が予測される場合は、運用基金の取り崩しを理事会に提案する。
 - 7) 2022年度の設備投資は、設備投資計画範囲内で優先順位を定め実行する。
2. 予算編成作業実施にあたっての留意点
- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
 - 2) 人的費用は、顧問、嘱託、パートタイマー及び臨時の雇用員までの全ての費用を把握し、予算に計上する。
 - 3) 関西セミナーハウスは、公益目的事業、収益事業別の施設利用計画を作成する。

(以 上)